

超低金利

本当に資産は目減りする？

普通預金の金利 年**0.001**%（税引前※）



100万円を1年間預けても、
利息はたったの**10円**

どうりで、ふえないはずよね…。





(現在、100万円)



(5年後、約**110万円**)



現金100万円



現金100万円

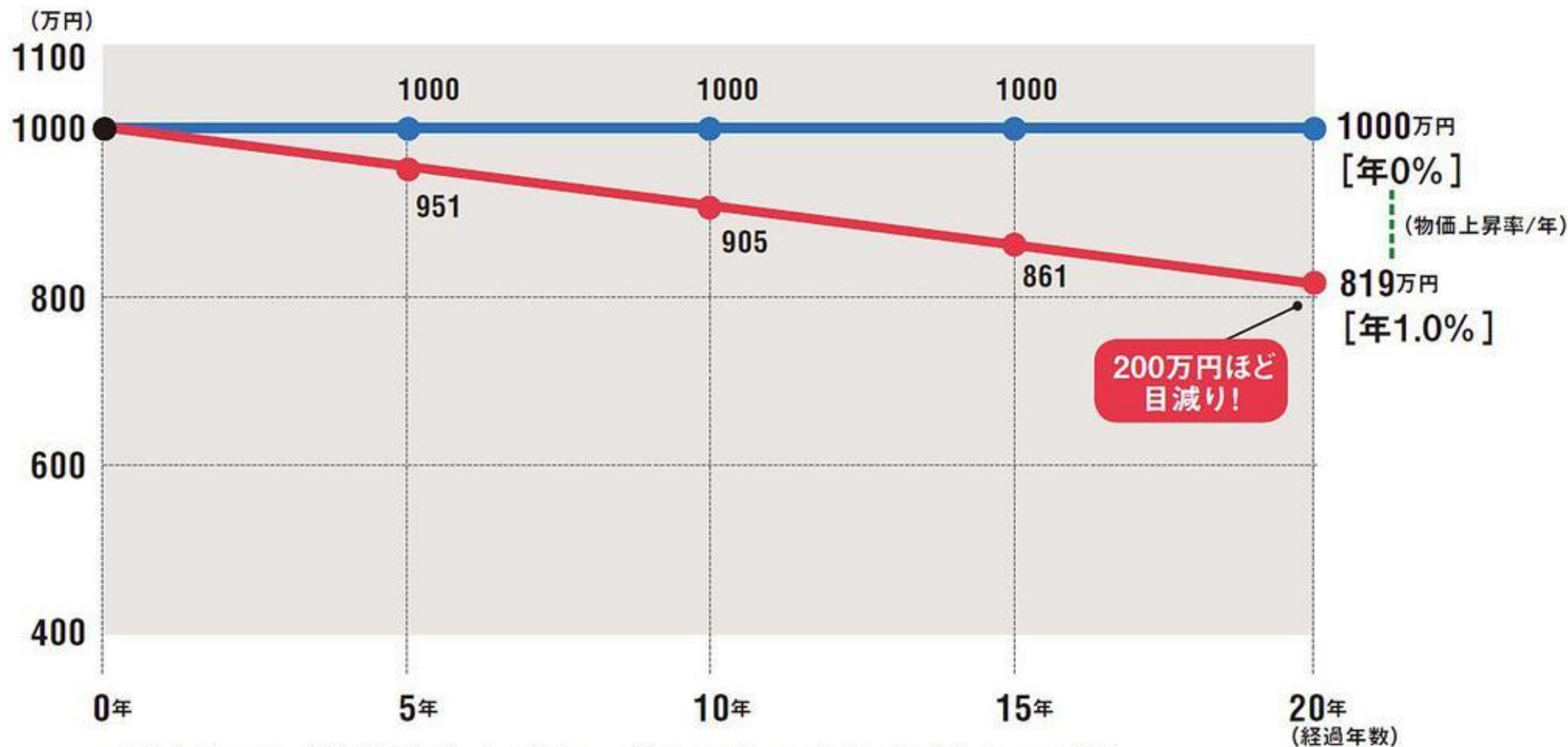
現金が約**10万円**
足りなくなった…



=

**インフレで
現金の価値が
目減りする**

図1 金利がほぼゼロで毎年1%ずつ物価が上昇すると、
資産はどれだけ目減りする？

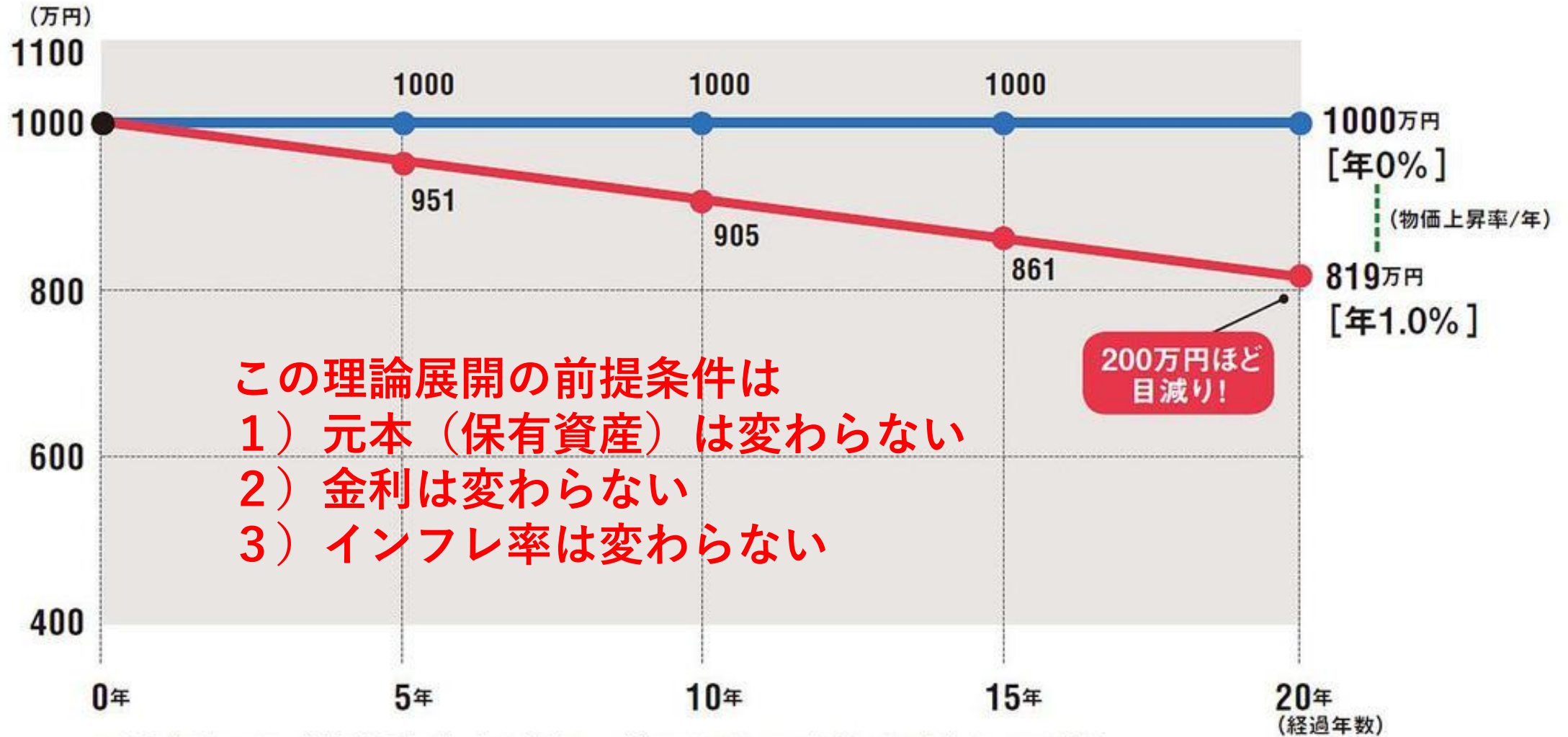


※預金金利はゼロ、物価上昇率が一定と仮定し、当初の1000万円がどれだけ減少するかを算出。

物価上昇率が1%、預金金利ゼロとすると、1年目は1000万円のうち1%分(10万円分)が目減りして、990万円になる。

この考え方は正しいでしょうか？

図1 金利がほぼゼロで毎年1%ずつ物価が上昇すると、
資産はどれだけ目減りする？



※預金金利はゼロ、物価上昇率が一定と仮定し、当初の1000万円がどれだけ減少するかを算出。

物価上昇率が1%、預金金利ゼロとすると、1年目は1000万円のうち1%分(10万円分)が目減りして、990万円になる。



(現在、100万円)



(5年後、約**110万円**)



現金100万円



現金100万円

現金が約**10万円**
足りなくなった…



**インフレで
現金の価値が
目減りする**

**この考え方の次に来るのは・・・
だから・・・**



特集1

ほぼ金利ゼロの世の中で
お金をふやすには

資産運用



今日は、超低金利時代の資産運用について考えてみましょう

果たして、低金利だから預貯金以外の資産運用
(投資 and/or 投機) は本当に必要でしょうか？

今、貯金をするとすれば、何パーセントの
利息なら満足できますか？

資産

100万円

10年後

0.1%

約101万円

1.0%

約110万円

3.0%

約134万円

5.0%

約163万円



御大禮貯金證書
記念

金壹圓也

満期日大正四年拾月貳拾日

右金額本日より上壹百個年間に
滞預し申候就ては満期日より
元利金參百參拾九圓參拾錢本證
書引換し滞支拂の申候證書
仍而如件

大正四年拾月貳拾日

株式會社新鴻貯蓄銀行

取締役

他田正子

新鴻貯蓄銀行



明治33年、「100年定期預金」は、「1円」
の価格で発行されました。

満期を迎える100年後には、1円が1万円なる
というものです。

100年で元金が1万倍、年利に換算すると
9.75%という高利率の商品でした。

当時の1円は、今の価値で言うと**5,000**円程です。

満期を迎える**2000**年には、利息は**1**万倍、すなわち**5,000**万円の価値になるはずですが。

満期を迎えた**2000**年に、**5,000**万円になっているかを銀行に問い合わせました。

すると・・・『額面は**1**万円ですので、換金額は**1**万円です。』
1万円は**1**万円、と当時の価値は評価されず。**5,000**万円には残念ながらなりませんでした。

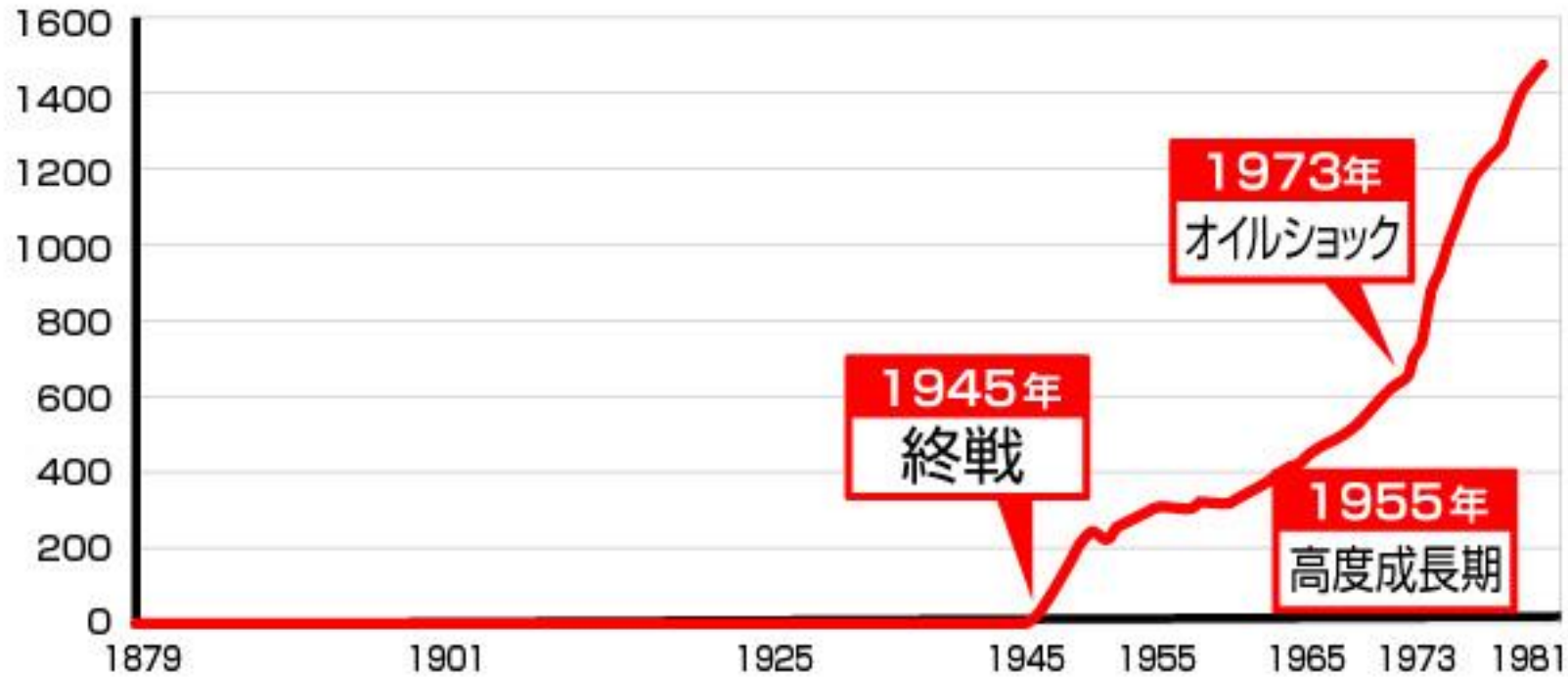
この考え方は正しいでしょうか？

なぜ100年銀行に預けたお金は、目減りしてしまったのでしょうか？

100年間で起こってきた主なインフレを見てみます。

■終戦後	1934～1954年-----	消費者物価指数	300倍にUP
■高度成長期	1956～1972年-----	消費者物価指数	年平均4.5%上昇
■石油危機	1974年-----	消費者物価指数	単年で23.2%上昇

消費者物価指数の推移



(日本銀行の資料を元に作成) 1934-36 (昭和9-11) 年を1とする ※同番組より

100年間で物価は**3000倍**以上に上昇。
預けられた現金の価値は置いてけぼりになってしまいました。

1 円 → 10000 円

1 円→100年後に10000円

当時の1円は今の5000円の価値

元金が10000倍になるなら、当時の 1 円は今の5000円だから、今の価値で5000万円になるはず

当時の 1 円 100年後に → 10000円



今の 5000円 1万倍だから → 5000万円

当時の 1円 100年後に → 10000円
(現在価値)



今の 5000円 1万倍だから → 5000万円
(現在価値)

5000円 → 10000円

資産価値は2倍に → 少なくとも資産の
目減りはない

では、問題点は何か？

年利10%程度で運用しても資産価値としては
100年で2倍ほどにしか増えない

100年後に等価値を得るためには資産を5000倍にする必要がある

(明治の1円が現在の5000円と同じ価値だから)

そのためには年利8～9 %での運用が必要

できますか？

でも、明治時代と比べて生活は豊かになっていませんか？







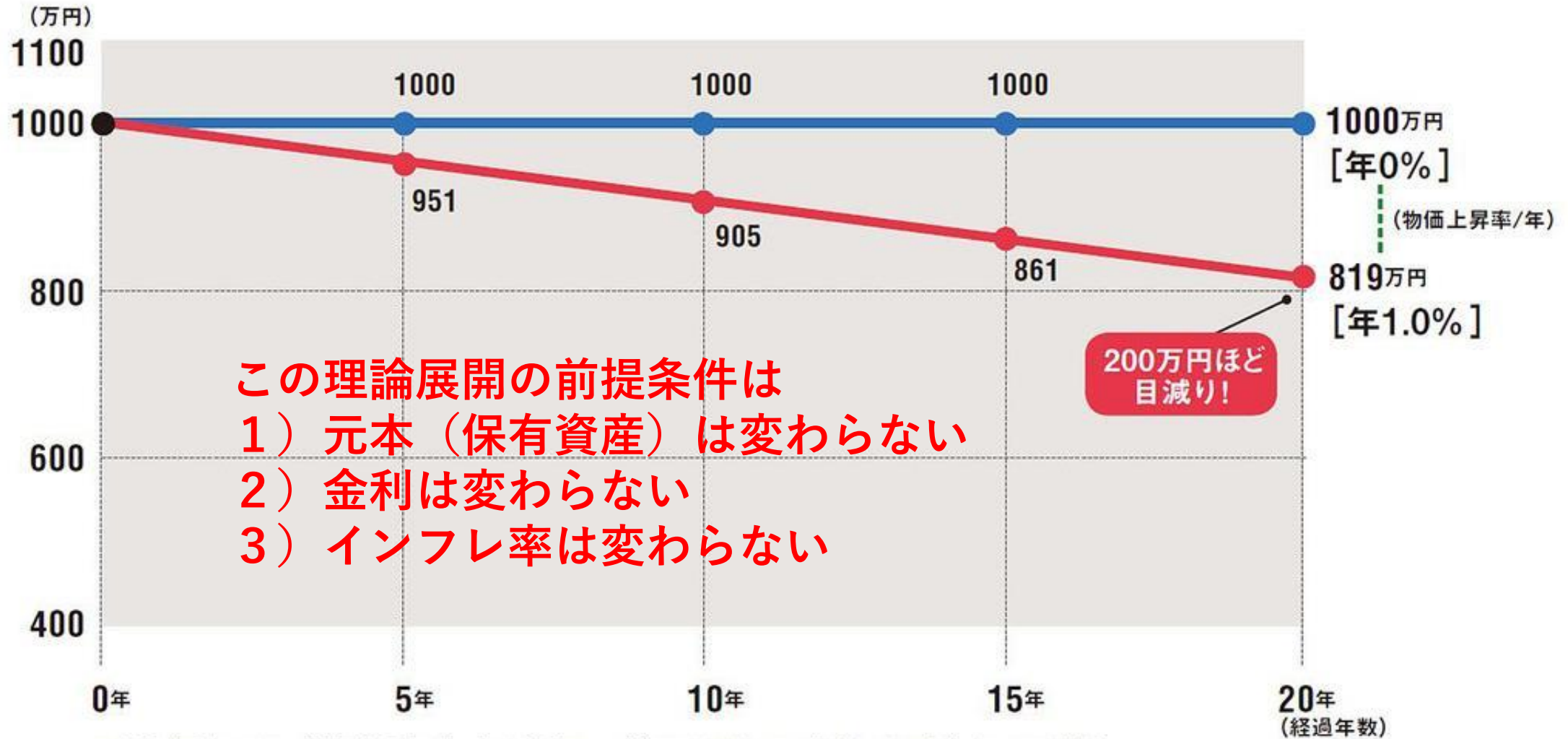


明治時代と比べて生活は豊かになっていませんか？

人々の資産も増えていないのでしょうか？

それはなぜでしょうか？

図1 金利がほぼゼロで毎年1%ずつ物価が上昇すると、
資産はどれだけ目減りする？



※預金金利はゼロ、物価上昇率が一定と仮定し、当初の1000万円がどれだけ減少するかを算出。

物価上昇率が1%、預金金利ゼロとすると、1年目は1000万円のうち1%分(10万円分)が目減りして、990万円になる。

低金利で資産が目減りするという主張の多くは

1) 元本（保有資産）は変わらない

2) 金利は変わらない

3) インフレ率は変わらない

が前提条件となっているのではないだろうか



(現在、100万円)



(5年後、約**110万円**)



現金100万円



現金100万円

現金が約**10万円**
足りなくなった…



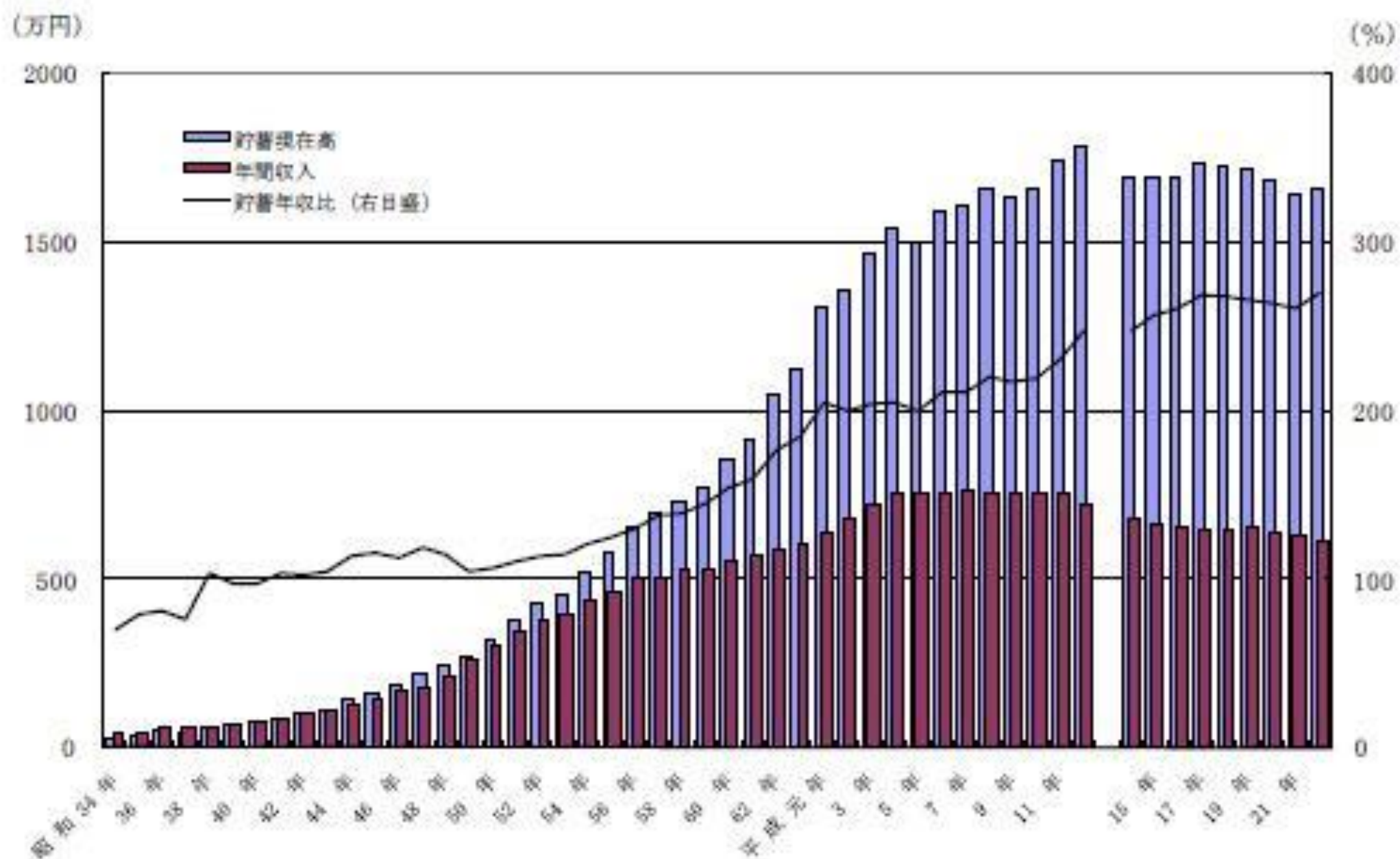
= **インフレで
現金の価値が
目減りする**

元本が変わらない → 人々は貯金をします（積立）
インフレは給料を上げます

この結果、元本（保有資産）は時間とともに増えて行きます

資産目減りの主張では、元本部分が積立で増えることについて考慮していないように思います

図8 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）



政治体制の変化により、労働者の地位が守られるようになったことが、大きな要因かと思いますが、
コツコツと貯金をしてお金を貯めていたことも、
結果として資産の維持（増加）につながった理由の一つではないでしょうか？

低金利で資産が目減りするという主張の多くは

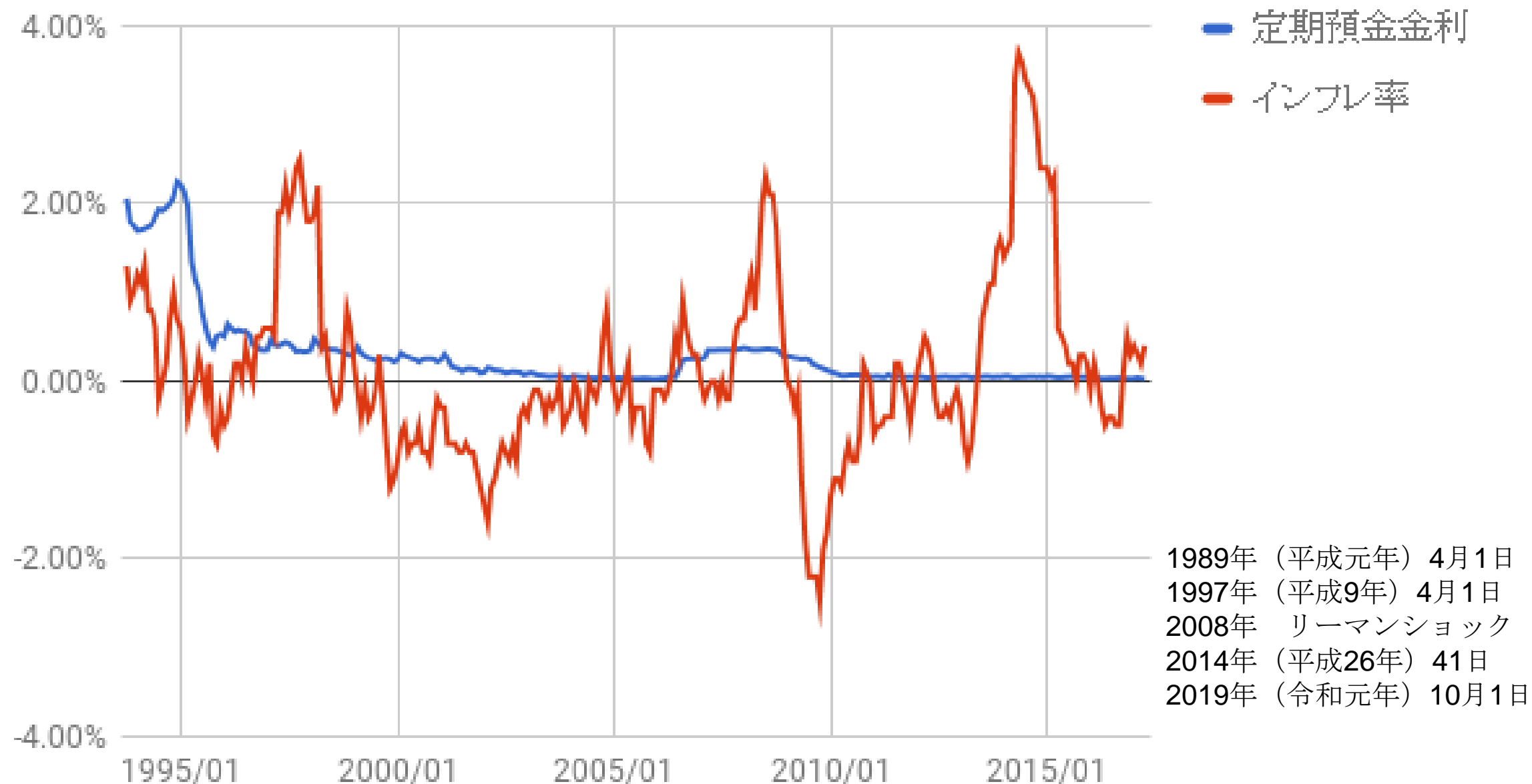
1) 元本は変わらない

2) 金利は変わらない

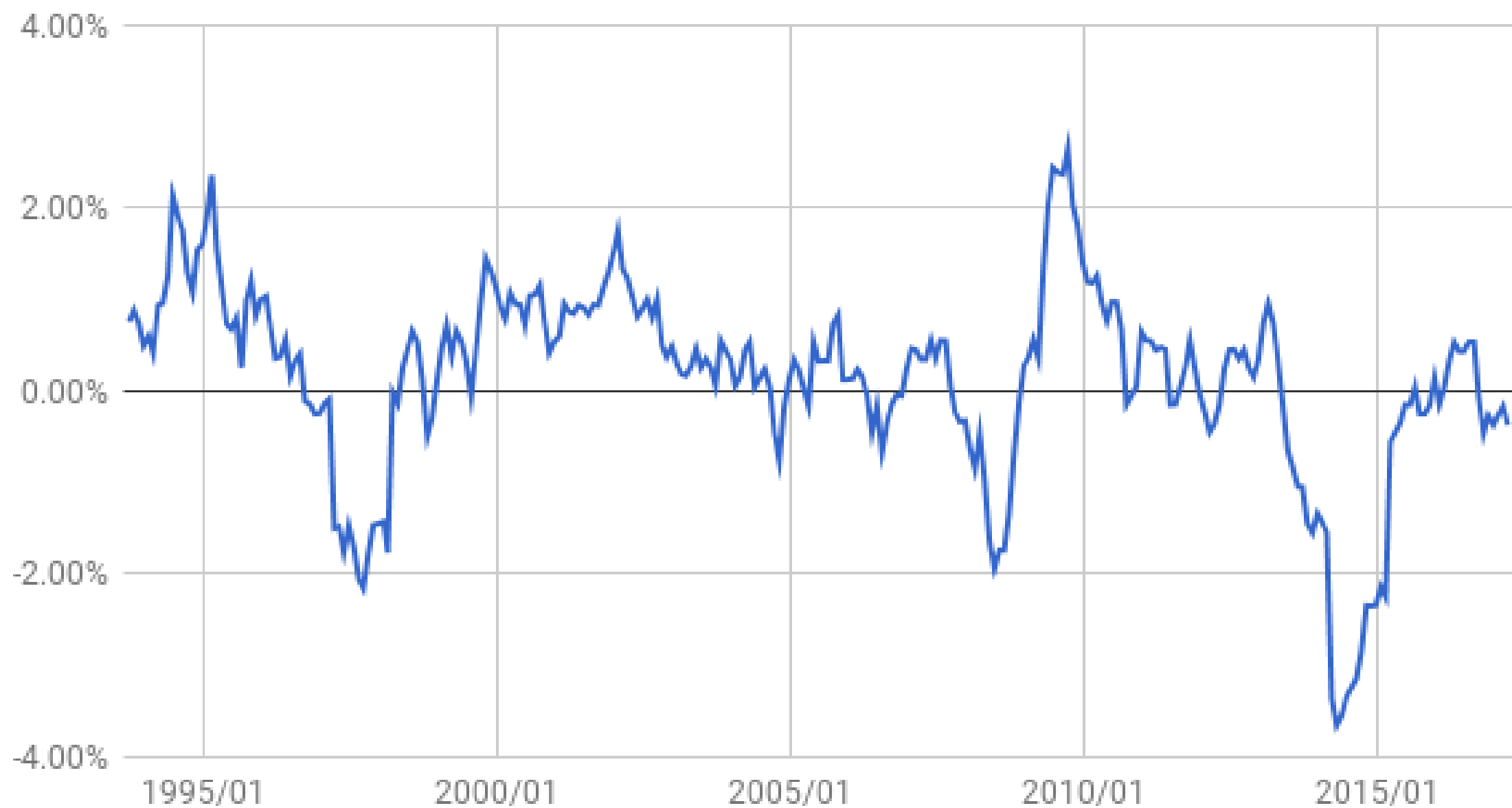
3) インフレ率は変わらない

が前提条件となっているのではないだろうか

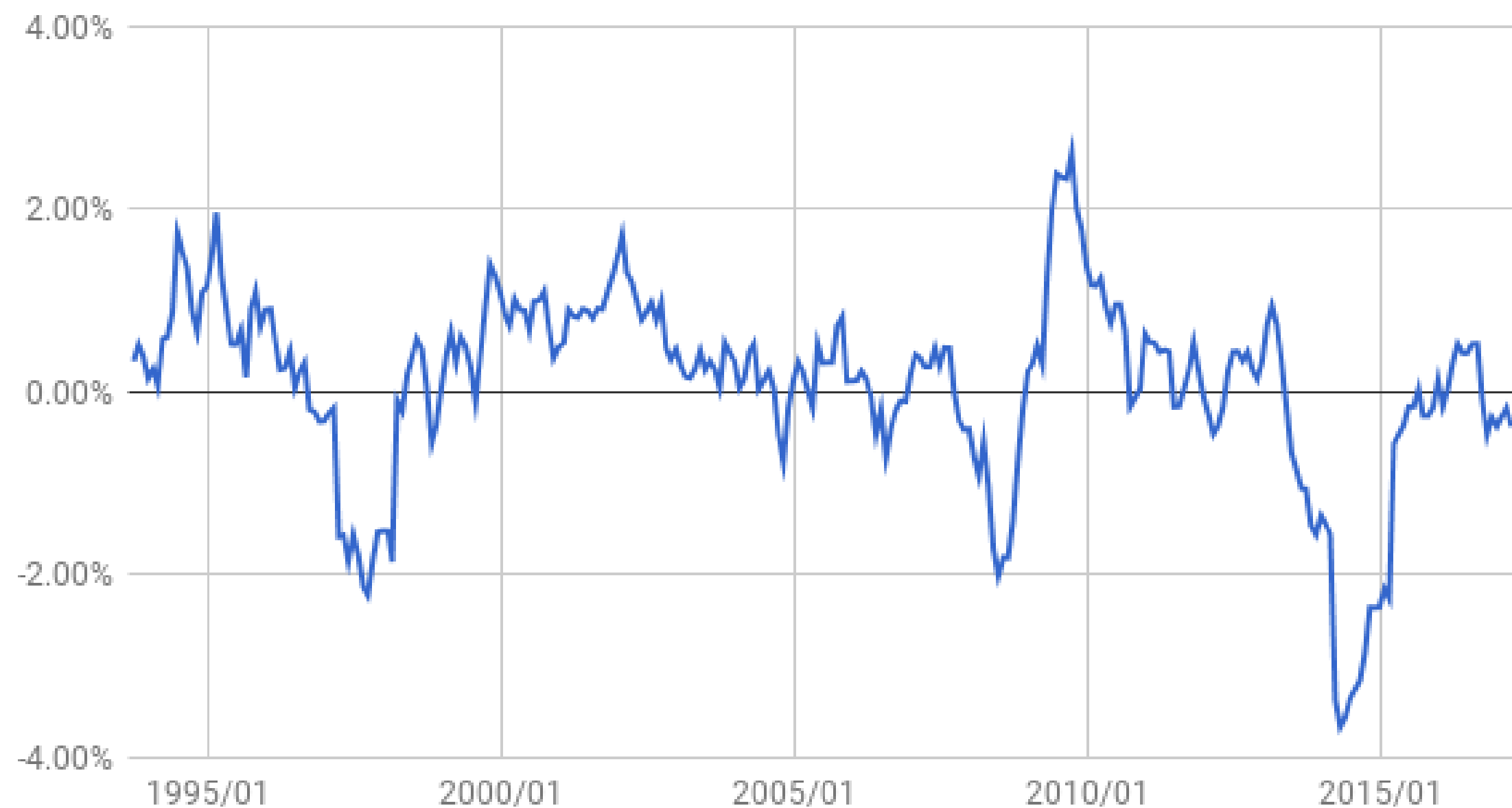
定期預金金利とインフレ率の推移(1993年10月～2017年4月)



「定期預金金利－インフレ率」の推移(1993年10月～2017年4月)



定期預金金利(税引き後)－インフレ率の推移(1993年10月～2017年4月)



長短金利とインフレ率の動向（月次データ、年率換算）

(%)

15 -

12 -

9 -

6 -

3 -

0 -

-3 -

- 翌日物コールレート【短期金利】
- 10年物国債利回り【長期金利】
- 消費者物価指数の前年同月変化率【インフレ率】

1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020 (年)

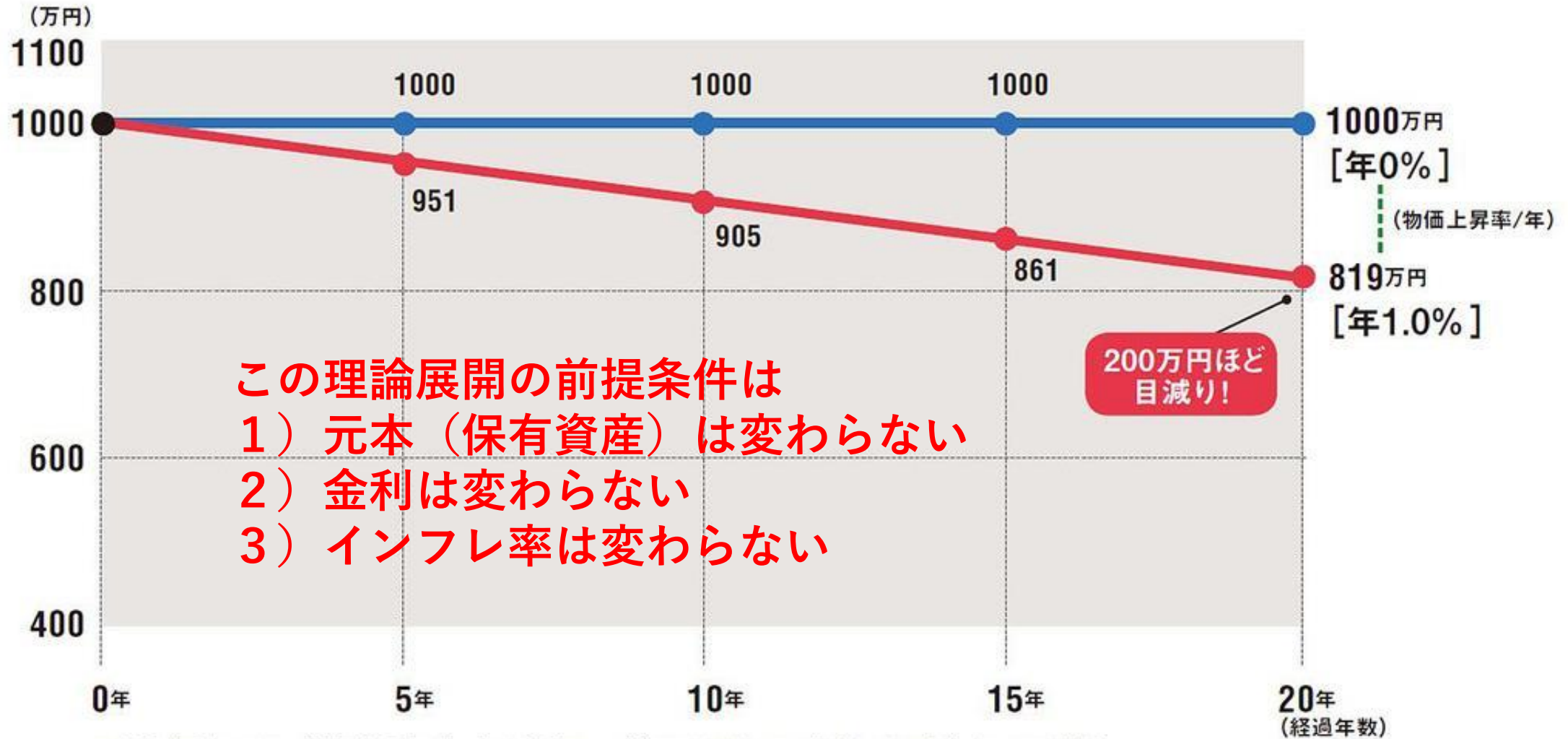


今まで**預金金利を過小評価**していましたが、
定期預金の利息は元本の目減りをある程度
カバーできるといえそうです。そこまでイ
ンフレを心配しなくても良さそうですね。
今後はどうなるか分かりませんが…

日本の預金金利とインフレ率
最終更新日：2018/10/27

<https://ronaldread.blogspot.com/2017/07/deposit-interest-rates-inflation.html>

図1 金利がほぼゼロで毎年1%ずつ物価が上昇すると、
資産はどれだけ目減りする？



※預金金利はゼロ、物価上昇率が一定と仮定し、当初の1000万円がどれだけ減少するかを算出。

物価上昇率が1%、預金金利ゼロとすると、1年目は1000万円のうち1%分(10万円分)が目減りして、990万円になる。

低金利で資産が目減りするという主張は、
時の経過とともに

1) 元本は積み立てで増える

2) インフレ率は変わる

3) 金利はインフレに連動して変わる

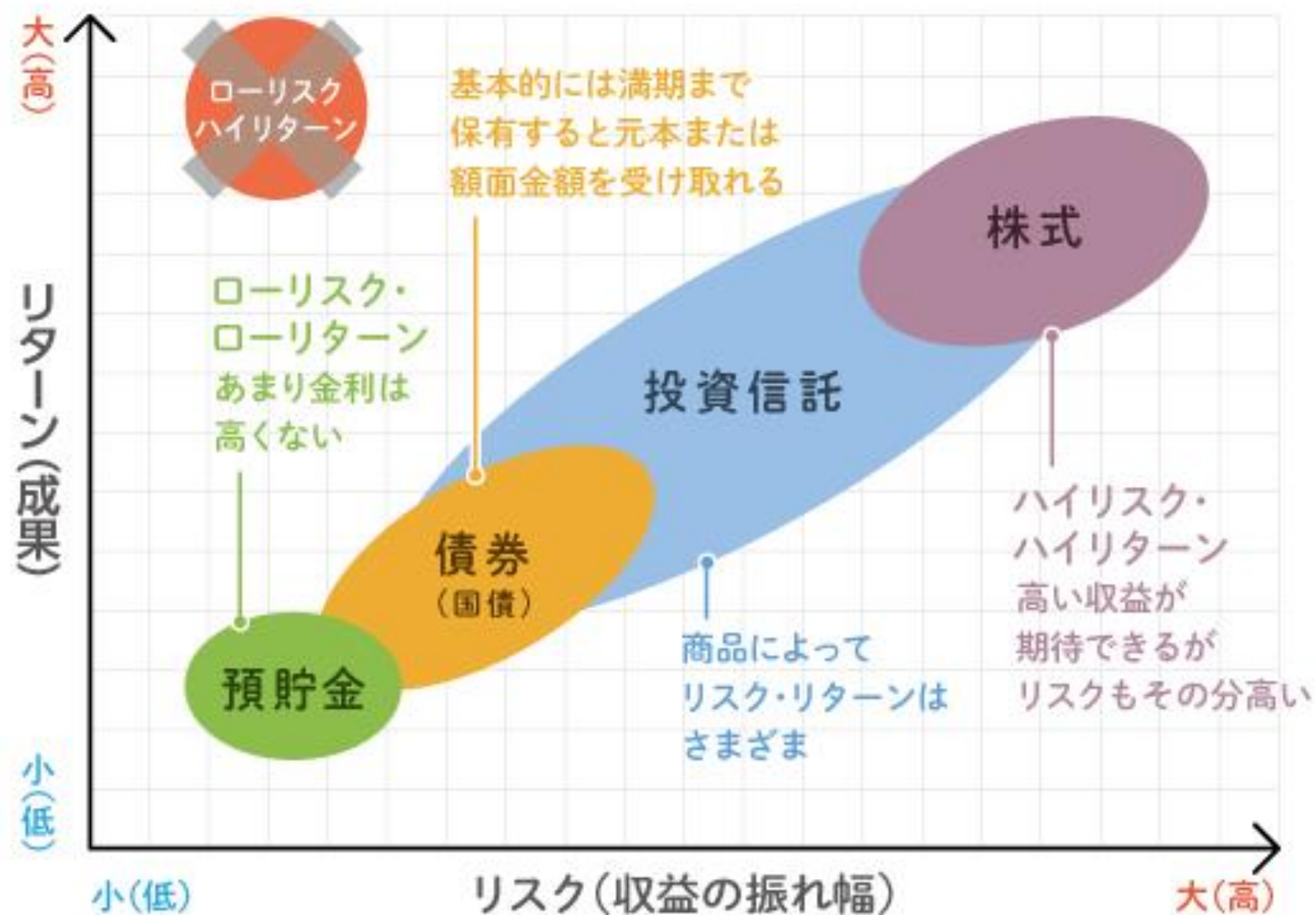
と考えると成り立たないのではないだろうか

超低金利

資産は目減りする？

リスク商品（投資信託、株式運用、不動産投資、外貨預金等）で積極的に資産運用する必要があるか？

〈リスクとリターンの関係〉



※これは一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

現金（預貯金）

債券

投資信託

ETF

株

外貨預金

REIT

IDECO

NISA

金投資

原油

コモディティ

不動産

これらの商品をどう活用するか

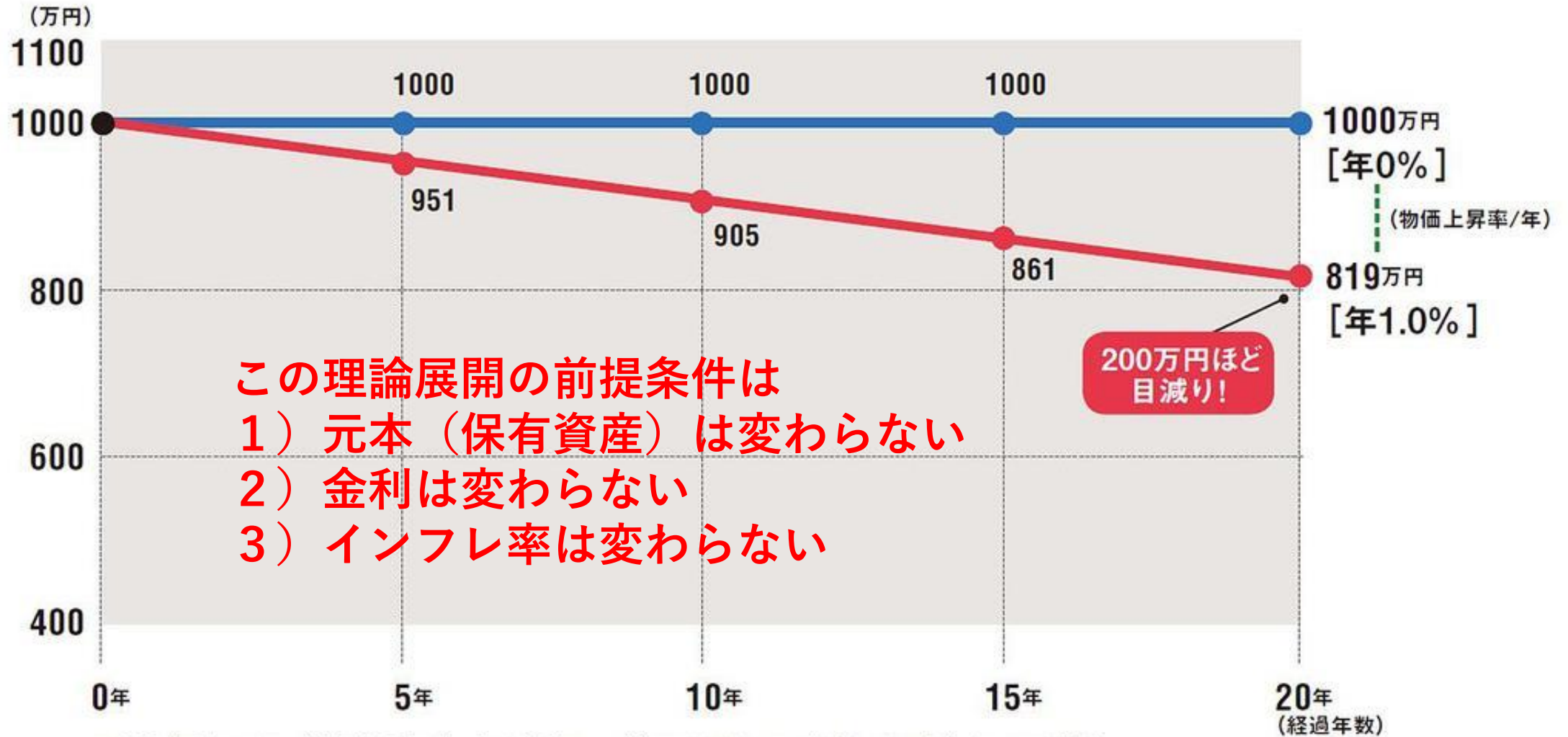


次回以降のテーマに

超低金利

本当に資産は目減りする？

図1 金利がほぼゼロで毎年1%ずつ物価が上昇すると、
資産はどれだけ目減りする？



※預金金利はゼロ、物価上昇率が一定と仮定し、当初の1000万円がどれだけ減少するかを算出。

物価上昇率が1%、預金金利ゼロとすると、1年目は1000万円のうち1%分(10万円分)が目減りして、990万円になる。

長短金利とインフレ率の動向（月次データ、年率換算）

(%)

15

12

9

6

3

0

-3

- 翌日物コールレート【短期金利】
- 10年物国債利回り【長期金利】
- 消費者物価指数の前年同月変化率【インフレ率】

1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020 (年)



低金利で資産が目減りするという主張は、
時の経過とともに

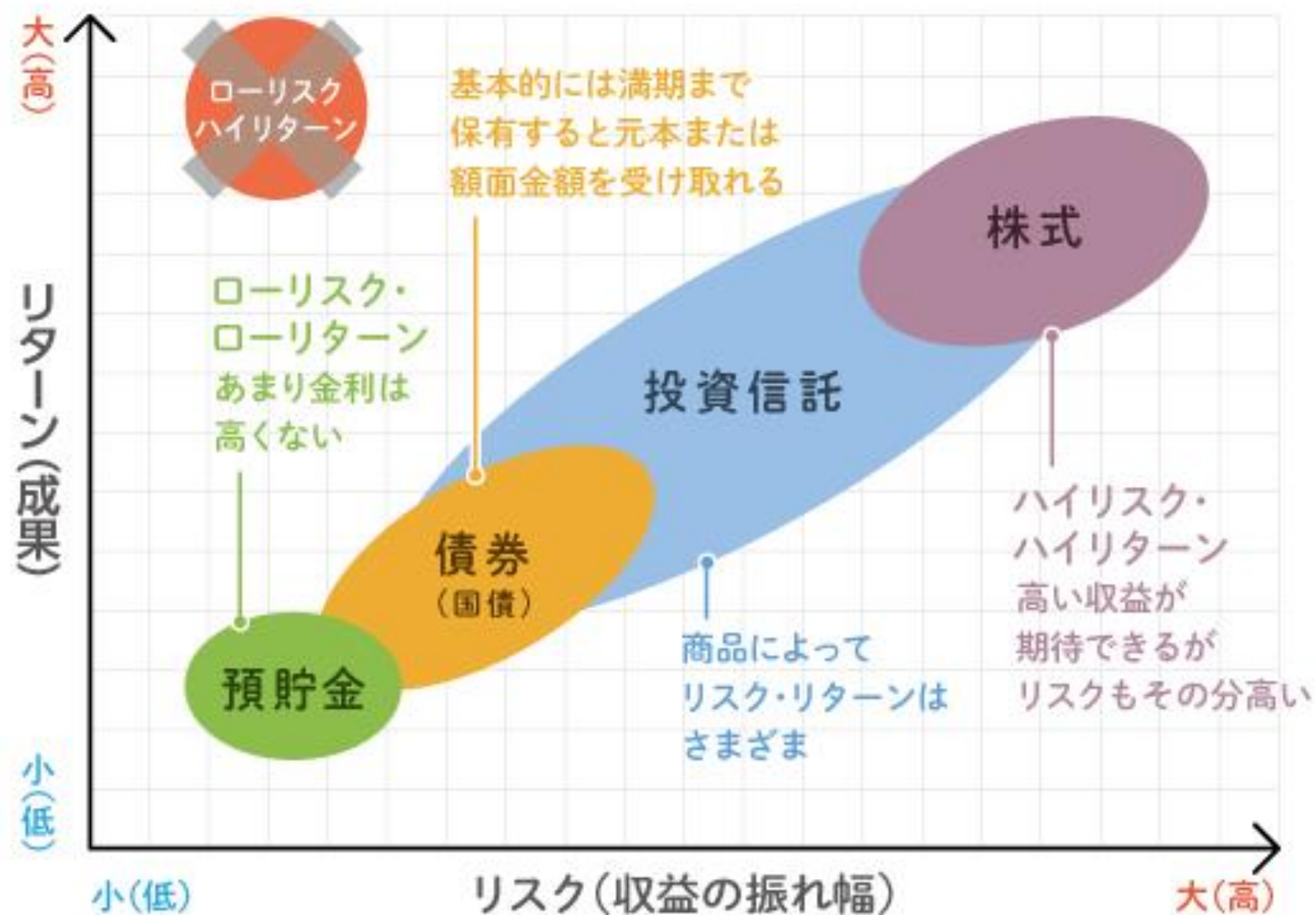
1) 元本は積み立てで増える

2) インフレ率は変わる

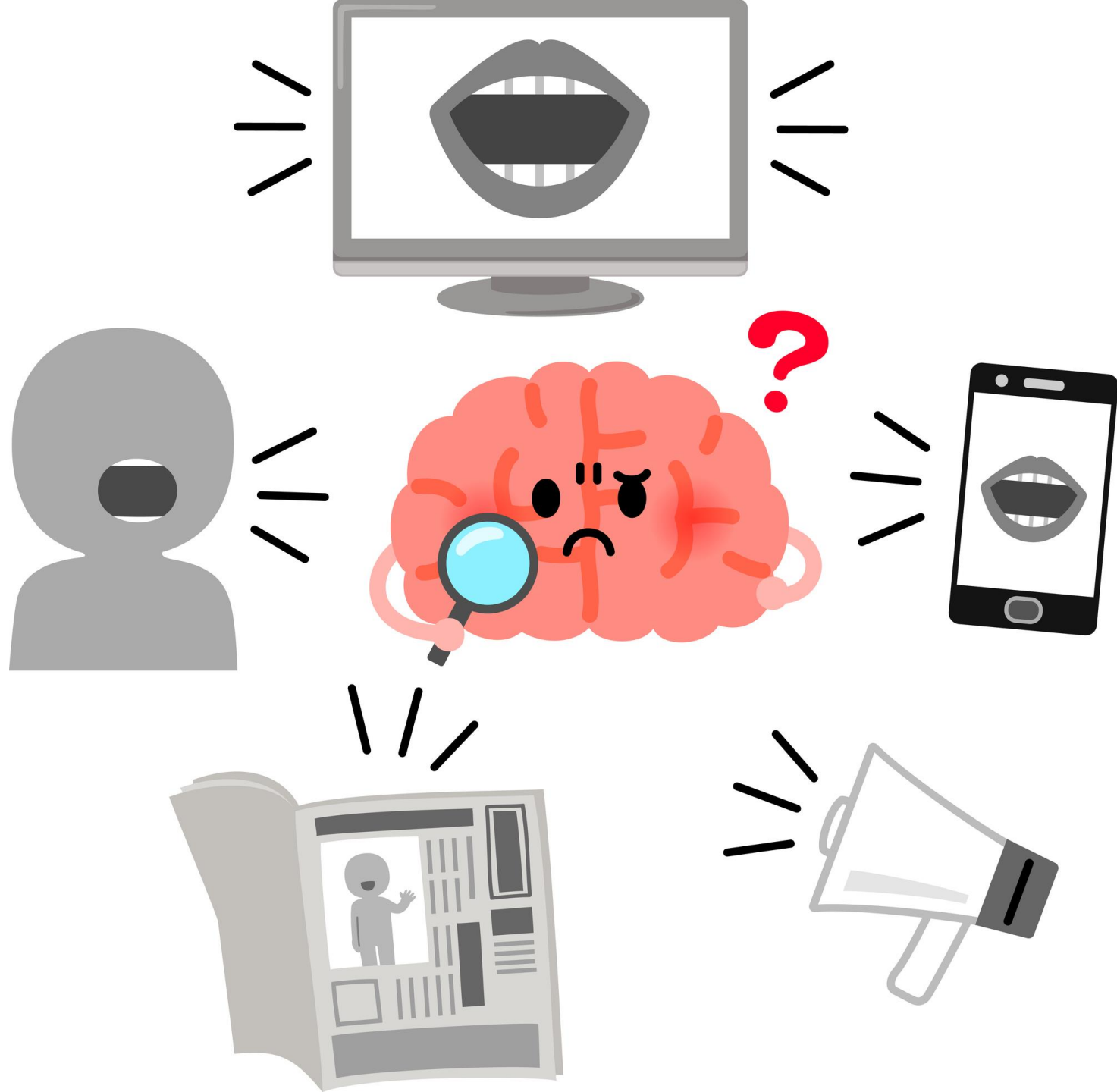
3) 金利はインフレに連動して変わる

と考えると成り立たないのではないだろうか

〈リスクとリターンの関係〉



※これは一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。





一生だまされて
高い金 払わされ続けるぞ